

## 令和5年度 第三回学校運営協議会 議事録

日時:令和6年1月24日(水) 15:00~

場所:千葉県立下総高校 会議室

(1) 開会のことば (教頭)

(2) 校長あいさつ

(3) 日程等説明 (教頭)

(4) 議事 (会長)

ア 各分掌の取組み (教務部・生徒指導部・進路指導部・総務部・管理厚生部)

① 教務部

人見 出席率は、ここ最近、良好である。遅刻については、年々、減少している。9割以上の生徒が学校生活上、よく頑張っている。6月に本校で公開授業を行った。今年は、成田市教育委員会にご協力いただき、初めて、中学校に連絡を行った。中学生と保護者31名が来校し、授業参観をしてもらった。また、中学校の先生にも授業参観をもらい、「とてもよい刺激を受けた」という感想をいただいた。

② 生徒指導部

北川 本年度の指導件数は、昨年度と比べて若干増加傾向だった。件数イコールでないことをご理解いただきたい。大きな事故ではなかったが、原動機付自転車で登校している生徒が単独による転倒があった。アルバイトに関しては、家計を支える理由で、多くの生徒が許可願いの申請を提出している。本校では、アルバイトと学校生活を両立している生徒も多く在籍している。3年生は12月段階で、18名が、教習所へ通い始めている。現在は、23名に人数が増えている。生徒指導上の課題として、自分の考えや思いを外に発信する生徒が多く、SOSの出し方を生徒に伝えている。近くにいる子供達や自分の事と合わせて、何か変わったことがあれば、すぐに周りの大人に相談するよう話をしている。また、モラル・マナーでは、地域の方々から、登下校中における自転車の乗り方、利用している駅での待合室の様子について、時々、ご指摘をいただくことがある。生徒達は、話せば理解できるので、継続して指導を行う。配布している資料では、印旛地区、東総地区において、本校の指導件数が多いが、問題行動を見逃していないということで、軽微なものを含めての結果である。今後も望ましい対応、NGな対応を職員に周知し、生徒指導上でも空振りを恐れずに、気になることがあれば、いつでも相談・報告するなどして、チーム下総で対応していきたい。

### ③ 進路指導部

北村 残り1名を除き、ほぼ進路が決定している状況である。この1名が決まれば、進路決定率は100%になる。進路の傾向としては、大学、専門、公共職業専門学校で約40%、就職、縁故は約60%になっている。今年は、特に就職が多い。求人数も増えているが、進路決定した所は、過去に先輩が採用されており、担任を通じて、情報提供が行き届いた良い結果だと感じている。

### ④ 総務部

根本 今年の活動を総括して、PTA 総会では、議題がいくつかあったが、全て可決することができた。小御門祭では、PTA、同窓会も参加していただき、好評のうち終了することができた。その他として、広報「緑総」を7月に発行した。3月も引き続き発行する。PTAの登下校指導、関東高P連の大会に教頭、PTAの理事3名が参加した。続いて、千葉県印旛地区のPTA研修会にも参加した。外部行事は、コロナ前の状態に戻りつつある。今後は、新入生の役員選出に向け活動している。

### ⑤ 管理厚生部

天瀬 活動報告としては、地震・火災の避難訓練、消火訓練、1年生に降下訓練を実施した。また、本校は通学路清掃を行っており、3年生は10月に実施済みである。1、2年生は3月下旬に実施予定となっている。その他、生徒及び職員の健康診断やアルコール消毒手洗いの推奨を行い、感染予防に取り組んでいる。

## イ 各分科会報告（1年間の総括について）

### 学校教育活動支援

委員 学校公開日に合わせて子供達の学び、学校の様子をより広げていくことに目標を定めた。子供達がのびのびと、どの部門、科も活動している様子がとても良くわかった。特に、昨年度の卒業生に会うことができ、中学校での様子と違う、積極的な姿勢を見ることができてとても良かった。私達の学校も下総高校の各学科と連携を図り、園芸科の方では、小学3年生がサツマイモ栽培について、4～6年生では、自動車科と一緒に模型の作成、中学1年生は情報処理科の生徒さんにプログラミングの指導、支援をしてもらった。このような魅力ある活動を本校のホームページ掲載した。また、学校便りや地域の回覧でも案内した。本年度、園芸科の生徒に進路説明会へ参加していただき、生の声を聴くことができた。さらに、この活動が他校でもできるのではないかと思い、成田市校長会の方でも活動発信を行い、学校教育活動支援を行った。

### 地域連携推進

委員 課題研究発表会では、特に園芸科の活動が地域に密着している。成田空港や漁業協同組合との連携をマスコミ、新聞あるいは雑誌に取り上げてもらい、下総高校の知名度が上げる努力を我々もしていきたい。

## 広報推進

委員 今年度も8月に「かわら版」を発行した。一番肝心の生徒コメントについては、2、3年生にいただいた。特に顔写真を見ると、とても雰囲気が高く、下総高校の生徒らしさがよく出ている。今後は、可能だったら、学校のホームページに発信できたらと考えている。

## ウ 意見交換

委員 課題研究発表会において、園芸科の発表では、香取市内の中学校の先生と交流があった。これが、ヒントになると感じた。香取市だけでなく、印旛地区、茨城県の生徒や先生方を学校に招待して、園芸科だけでなく、自動車科のエコカーもPRしていただきたい。

委員 8月8日にスカイタウンホールでキャリアアップゼミを行い、成田市内の高等学校がPRを行った。初めての取り組みだったが、中学生に近隣の高等学校それぞれの良さを知ってもらうことができた。今後もこの活動を続けていきたい。

委員 PTA活動は、多くの保護者も共働きであり、参加率が少ない。もう少し、活動を増やしてほしい。地域連携の中で、保育体験を行っているが、この職業体験が生徒の刺激にもなり、進路の方向性を決めるきっかけになる。このような機会が増えると、進路決定における有益な情報であると考えられる。

委員 進路状況の中で、自営者が0名ということで、園芸科で栽培に従事しているのにも関わらず、自営者が0名の理由は。

進路 今年、卒業する園芸科の生徒で、家が農家をしている生徒は2名いる。その生徒達は、農業大学校に進学し、卒業後、農家を継ぐと聞いている。

委員 ナマズ液肥について、今日初めて聞いた。野菜作りにその液肥を使った有機栽培で、美味しい野菜栽培ができれば、普及が進み、私が理事をしている直売所でもPRできると感じた。是非、自宅でも肥料が購入できれば使ってみたい。

園芸科職員 ナマズを使った液肥は光合成細菌を培養しているので、ある程度の量は製造可能である。ただし、時間がかかる。また、ウッドチップを使用した肥料は、ウッドチップそのものに肥料成分があるわけではなく、ウッドチップを堆肥化する必要がある理由から、液肥を作るよりも、かなり多くの時間を必要とする。ウッドチップの出る量と手に入るまでの経緯を考えると、量産体制を考えるのには時間がかかり、効果を今後、検証する必要がある。

## (5) その他

学校運営協議会の開催予定について

## (6) 閉会のことば (教頭)